

37. 木造校舎の思い出

昭和50年卒 松永昌治

先日、大歳小学校の前を通りかかった折、校舎が建て替わっているのに驚いた。覚えのある木造校舎はあとかたもなく、鉄筋コンクリートの近代的な建物が軒を並べていた。

思えば、我々は、昔の木造校舎で学んだ最後の世代に当たっている。掃除の時間に、板張りの廊下を雑巾で拭くなどということは、今の生徒達には想像できないのではないだろうか。“すいばり”が刺さったり、床からとびだした釘でけがをするなどということも日常茶飯事であった。

木造校舎の中でも、一番記憶に残っているのは旧講堂である。その頃体育館はなく、卒業式や音楽会といった行事はもとより、雨天時の体育の授業は全て講堂で行われた。古い建物で天井が低く、床はやはり板張りであったため球技は行えず、講堂での体育はもっぱら体操と決まっていた。マット運動、跳び箱といったものであるが、運動の苦手な私は辛い思いをしたものである。

今の体育館が建っている場所は当時は田で、ちょうど我々の在学中に、用地の造成工事が始まった。工事中は、体育の授業で工事の手伝いをしたのを覚えている。一輪車で土を運び、田を埋めたのであるが、考えてみれば小学生が土を運ぶぐらいで工事の手助けになるわけもなく、あれは勤労学習の一環であったのだろう。

今はない木造校舎にまつわる、懐かしい思い出である。

38. 嬉しくて、悲しくて、恥ずかしくて

昭和50年卒 矢原 小野 秀 樹

小学生の時にしたことは… たくさんあるある。

「怪獣ごっこ」をよくした。ウルトラマン役がしたかった。テニスボールで「ろくむし」を毎日やった。ボールがうまくキャッチできなかったな。よくぶつけられてた気がする。

ソフトボールのキャッチャーでファールチップが顔面直撃したときは痛かった。鼻血が止まらなかった。泣いたな。マラソン大会がいやだったな。体力が無かったから辛かった。

記念切手の収集が流行っていた。昼休みに大歳郵便局へ行って買ったこともあった。

「吉敷の滝」に学年で行ったとき、弁当を食べる前にひっくり返した時はくやしかった。最悪だった。

気は弱くて泣き虫だったが、負けん気だけは強かった。威張っている奴が気に入らなかった。反旗を翻していじめられたこともあったな。

小学5年から「スポーツ少年団」にはいってサッカーを始めた。体が小さくても結構やれたのが嬉しくて、毎日楽しかった。本気で練習した。

思い出といえば、たくさんあるけど、これぐらいにしておこうか。30歳を過ぎても鮮明に心に残るあの瞬間、あの気持ち。嬉しくて、悔しくて、悲しくて、恥ずかしい。あー一瞬の出来事みたいなんだけど。

第6章 百周年記念



創立100周年記念碑

題字は武波貞義さん 施工は中村造園

記念のなまえ



百周年おめでとう 平成7年度1年生のおともだち

1年1組

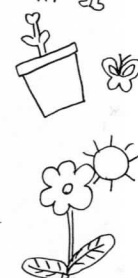


くきらいいいい めむまふふははのたそしきささこごうい
ろじかすししし すとえじじややすあむからみこえばうかえのう
さまむみむみだ いうはもかたしいぐらい ずうきやだるのう
らやらつ うとわ け し ゆ
つま けだ たの いとししたはた じ ゆ
かさみはちえと いいまいたがふん たい かく なが
ねとかるさまみ たき まはしきしい かい やんす うた
こと せい



1年2組

やももみふふふははししこかおあうあき
まりりよじじくらかうげばとおおき
ねたしたかいだだのちやうみッヴも
け ち ま があ
よけ りり けたあだを たひ けいけい
うんひょいんつさいかないろけいけい
すいろうう・じやひすがあちふんかよん
けちまたまん こけずき みたふうた
し



1年3組

たせしごくおいあ みみひはののさか刀あおえうい よめ
かがとろだしい わつらやだたこかだおおさちけ しも
なわせうだ がと なたし もまこしぎたきのわ と
てわわ あが だめさじと あま か とゆひ
いたたいなるおとけ きみかみこん あや おちもろみ か
っかつろがしい けきめすみ こい かい ちすのだい
ぺひやきし ひろ き み こい かい ちすのだい
いろ



1ねん1くみ



1ねん2くみ



1ねん3くみ

記念の作文

あたらしい校しゃができたよ

2年1くみ ただ あやか

わたしが1年生のときに、ふるい校しゃがなくなって、あたらしい校しゃがではじめました。2年生になってできあがりました。

あたらしい校しゃを見ると、「まじょのたつきゅうびん」に出てくるキキとジジがとんできそうなかんじがしました。さんかくやねのとけいだいがあるからです。とけいだいは、ファミリーのへんからもよく見えます。

あたらしい校しゃには、ほけんしつや、音がくしつ、たもくてきホールがあります。

4月には、たもくてきホールでみんなでしゃしんをとりました。

5月には、ぜん校のみんなとこうくうしゃしんをとりました。わたしは、「大とし」の「とし」のてんのところになりました。

わたしは、あたらしい校しゃが大すきです。あたらしい校しゃで、りかや音がくのべんきょうをはやくしたいです。

百年めをむかえて

2年2くみ さいとう のり子

百年ってどれくらいかよくわからないけど、すごくながいと思います。

わたしのうちでは、おばあちゃんもおかあさんもおにいちゃんも、大とし小学校でべんきょうしました。

おかあさんがべんきょうした校しゃは、この前こわされ、あたらしい校しゃになりました。おかあさんは、ちょっとさびしそだったけど、あたらしい校しゃは、とてもひろくてきれいです。

これからも、たくさんの人が、大とし小学校でべんきょうすると思うけど、わたしもたのしい思いでをたくさんつくって、おとなになってまたきてみたいと思います。

大とし小学校にきて

2年3くみ まつ本 まなみ

わたしは、四月に大とし小にてん校してきました。ことし大とし小が百さいになるときいて、百さいってどれくらいかなと思いました。わたしのひいおばあちゃんは、94さいまで生きていたので、それよりも長生きなんだなあ。すごいなあと思いました。

おじいちゃんが子どものころには、せんそうがあったそうです。おとうさんが子どものころには、きゅうしょくがはじまっていたそうです。百年のあいだにいろんなことがあったんだなあと思いました。

あきには、みんなでおおいわいをするときいて、たのしみになりました。百さいの年にてん校してきてよかったなあと思います。

これから、また百年たって、二百さいのおおいわいのとき、わたしは、百七さいのおばあちゃんだけれど、おおいわいにくることができたらいいなあと思います。



2年1くみ



2年2くみ



2年3くみ

大とし小学校の思い出

3年1組 宮成 昇

ぼくが入学した時には、まだ古い校しゃでした。ろうかは木で、まどわくも木でした。ちょっとこわれたところもあったけど、ぼくにとっては思い出がいっぱいです。1年3組の教室でひらがなもかん字もたくさん習いました。算数もしました。そうじを毎日して、ぞうきんがまっ黒になりました。

そんな校しゃが、ぼくが2年生になった時とりこわされることになりました。その話を聞いたぼくは、とてもかなしかったです。まだまだ使えるのにとりこわすのはざんねんでした。とりこわし前のらく書きもみんなは楽しくかいていたけど、ぼくは、なんだかかなしい気持ちになってあまりかけませんでした。

2年生からは新しい校しゃで、べん強しています。時どき、あの校しゃを思い出します。りっぱだった校しゃにまけないようにがんばりたいです。

百しゅう年おめでとう

3年2組 かた山ひろし

ぼくが入学してから3年。今ではりっぱな大すきな大とし小学校です。ぼくにとっては学校そのものが、たいせつな友だちです。百しゅう年にたてかえられた新校しゃは、新ピカのサビエルみたいでかっこいいです。多もくてきホール、ほけん室、音楽室、理科室など、中もみりよくいっぱいです。

大とし小学校でとくにおもしろいものは、回せんとうです。休み時間には友だちとよくこれで遊びます。また、きゅう食もとってもおいしく自まんでできるものです。

しかし、百しゅう年をむかえるなんて本当にすごいなあと思います。ぼくがおとなになるころには、多もくてきホールはどうなっているのだろう。たいせつなぼくの友だちだから、みんながよくつかい、大事にされるといいなあと思います。大とし小学校、百しゅう年本当におめでとう。これからもよろしく。

気持ちがいいな、新校しゃ

3年3組 加藤 千裕

わたしたちが1年生の時にべん強していた、だい1校しゃをこわして、三角の赤いやねの時計台がある、すてきな校しゃがたちました。

新校しゃの3がいの図工室のゆかは自分の顔がうつるほどぴかぴかで、入った時は、すべりたくなるようなつるつるです。いろんな話し合いができる多目てき室は、おもしろい形のつくえがいっぱいおいてあります。音楽室は広くて気持ちよく歌ったり、リコーダーをふいたりすることができます。どの教室もきずがひとつもないので、みんなだいじにしてくるんだなあと思いました。1かいのくつばこは色がカラフルで、ステンドグラスがあるし、かいだんのかべには1年生がよろこぶような楽しい絵があります。

わたしは、この校しゃが大すきです。いつまでもこの校しゃでべん強したいです。



3年1組



3年2組



3年3組

大好きだった旧校舎

4年1組 井上 直美

3年生の夏、あの旧校舎が取りこわされました。わたしたち3年生は、そのさい後の日まで、2階の教室で勉強していたのです。ろうかも教室もとても広くて、見はらしもよかった旧校舎。わたしのお父さんとおばさん、そしてお姉さんも、ここで勉強したのです。大好きな旧校舎でした。それがこわされると知った時には、悲しくなりました。

おわかれ式の日、わたしは、ガラスに「さいごまでありがとう」と書きました。花の絵もいっしょにかいて、おわかれしました。

大きなきかいが、もっと大きな音をたてて旧校舎を取りこわし始めました。その時わたしは、そのかけらを見つけて拾いました。今も大切にしまっています。ただのかけらだけれど、わたしの旧校舎の思い出として、時々そっと出してみます。旧校舎さん、数々の思い出をありがとう。

大とし小百周年をむかえて

4年2組 多田 淳

百年もがんばっている大とし小が、ぼくは、大好きです。ぼくは、1年生から3年生までを旧校舎ですごしました。2年間とちょっとだけでしたが、あの古い校舎には、いろいろな思い出があります。友だちとおしゃべりしながらキシキシとおもしろい音のするかいだんを歩いた事、手すりをすべった事、木のおいのする教室で勉強した事、校舎のまわりで遊んだ事、楽しかった旧校舎のでき事は、わすれることができません。

旧校舎がこわされる時は、つらかったけれど、今、とんがり屋根の時計台のある新校舎ができて、うきうきした新しい気分です。

ぼくたちは、百年目の4年生なのだから、はりきっていこうと思います。それから、ぼくの父が、百年目のPTA会長で、ぼくのたんになの先生が、父と同級生ということは、とても記ねんになる年だなと思っています。

いつまでもわすれないよ

4年3組 松永 純子

きゅう校しゃがくずされました。そして、私ははじめて建物や物がくずされる時になきそうになりました。それは、木や石のかけらに、階段で遊んだことやおわかれパーティーの時にみんなでわらったことが、おく深くつまっていたからです。でもなきたくはありませんでした。この一つぶ一つぶの思い出のかけらは、大とし小学校のみんなからきゅう校しゃへの100才のプレゼントでした。だから、もし私がなみだをこぼすと、これらの思い出がいっぺんにずっと消えてしまいそうな気がしたからです。

くずされてから次の日、私がにこにこ顔で学校に行くと、ないんです、今まであったあのきゅう校しゃが。私は悲しくなりました。でも、えがおだけはすてないですごしました。今もおぼえていますよ、私たちをよろこばせてくれたきゅう校しゃさん。



4年1組



4年2組



4年3組

百周年をむかえて

5年1組 重信 恵美

私がこの学校に来た時、この学校は古いなあと思いました。ろう下はメキメキいうし、ドアも開きにくいし。でも、いい所だっていっぱいあることをこの5年間で知りました。

入学式の時、友達ができるのかなあと心配したけれど、今ではたくさんの友達できました。それを全部見ていてくれた校舎。

今ではもう百才。私は10才だから、私の10倍も生きているんだなあと思いました。

百年と一言で言うけれど、よく考えるととても長い年月なので、私には想ぞうができません。

ただ私はこの学校に6年間しかいることができないのですから、卒業する時には、この学校でよかったなあと思えるように、あと残された2年間で大事に楽しく、すごしていきたいと思います。

百年がたって

5年2組 近藤 衣里子

大歳小ができて百年。人間でいうと百才だ。私のひいばあちゃんは、99才でなくなってしまった。あと1年で百才だったのにな。百年とひと口に言ってもとても長い年月なんだな。

私が知っている大歳小はたったの5年間。その5年の間に古い校舎がこわされたり、新しい校舎が建てられたりした。私の知らない95年の間にどんなことがあったのかわからないが、百年間続くということは、すごいことだと思う。

百年前の子供たちは、どんなことが好きだったのだろう。どんなことがきらいだったのだろう。今と全然ちがうだろうなあ。

大歳の人達は、これまで大歳小を大切に守ってきたのだろう。そのおかげで今の大歳小があるのだろう。私は、百年の間大歳小を守り続けてくれた地域みなさんにお礼がいたいなあと思う。

大歳小四代目の私

5年3組 平仲 史歩

私の家は、94歳でなくなったひいおばあちゃん、元気に田や畑で働いているおじいちゃん、会社に勤めているお父さん、中学校に通っているお姉ちゃんが大歳小の卒業生です。そして、今5年生の私を入れて、四代続けて大歳小に通うことになります。その大歳小が今年、百周年目の百歳になりました。

百歳になった大歳小は、特別室用の新しい校舎ができ、新しいシンボルの赤い屋根の時計台もできました。

ひいおばあちゃんが通っていたころにくらべると、校舎もずいぶん変わったと思いますが、大歳小が好きだという気持ちは、ひいおばあちゃんもわたしも変わりません。

これから先卒業までたくさんの思い出をつくって、わたしの子どもたちと、いつの日かこの時計台を見ながら、楽しい思い出話ができたらしです。



5年1組



5年2組



5年3組

大歳小学校の百周年

6年1組 上杉 忠

ぼくの家は、3世代続けて大歳小学校に通った。

祖母が通っていた時、大歳小は、第二附属小ともよばれ、先生は男ばかりだったそうだ。お父さんが生まれたとき、ちょうど去年とりこわされた旧校舎ができた年だった。

そして百周年目の今年、ぼくは6年生になり、この記念すべき年に「児童会」の運営委員になり毎日がんばっている。

ぼくは、この伝統ある大歳小学校に通ったことをほこりに思っ、これからもさらにがんばっていききたい。

木造校舎と私

6年1組 松本 知紗

私は1年生の終わりごろに大歳小に引っこしてきました。初めて学校を見たとき、古いなあと思いました。

ギー。足をふみ入れて鳴った音はこんな音でしたが、今年百周年をむかえることを考えると、歴史の重みを感じられる音でした。木造校舎は初めてで、きずや落書きが柱や机にあることにも人の心が感じられて、あたたかいものがありました。

今その校舎はありませんが、新校舎が私たちを楽しませてくれます。赤い屋根の時計台も、あの古い校舎もずっと忘れないでしょう。

いちまるまる

100才の大歳小の歴史と未来

6年2組 平田 久美子

私が小学校6年の今、ちょうど大歳小は百才。そういえば、父も祖父も大歳小を卒業している。大歳小はすばらしい歴史のある学校である。

百年前、大歳小は「朝田小学校」という名前だったらしい。その朝田小学校が、「大歳小学校」となってから、戦争などの歴史があった。そして去年、私達が1年から3年まで過ごした旧校舎がなくなった。しかし、大歳小の新しい歴史に向かって新校舎が建った。

大歳小は百才。これからも未来の歴史に向かって、はばたいていこう。

楽しい大歳小学校へ

6年2組 長尾 英典

ぼくが、今まで大歳小学校で一番楽しかったのが縦割り班で遊んだ集会です。たとえば1年生おめでとう集会（こいのぼり集会）です。この集会では大玉ころがしや、こいのぼりリレーなどをしました。とくに大玉ころがしでは、みんなが「ワーワーキャーキャー」と楽しそうに玉をころがしていました。ぼくは玉がこない時は「早くこないかなあ」とまちどおしくなるほど楽しかったです。

これからも、みんなが楽しく遊べるような大歳小学校になってもらいたいと思います。



6年1組



6年2組

父とぼくと大歳小

6年3組 中野 拓也

「大歳小もかわったなあ。」

新校舎を見上げて父が言いました。父が通っていたころの大歳小は、すべて木造作りで、体育館は「講堂」と言っていたそうです。父は、石けりをして、誰が遠くまで飛ばせるかを競って遊んだことをよく話してくれます。

今ぼくは、バスケットに夢中です（石けりは今ではやりません）。休み時間になると、ゴールめざして走ります。

父とぼく。時代はちがうけれど大歳小での毎日がとても充実している。これからも楽しい思い出がこの大歳小学校で生まれると思います。

大歳小のあゆみ

6年3組 大林 弘宗

ぼくは、3年生の時、大歳地区のことを勉強して、大歳小のことを少し知りました。

そして、このあいだ市の広報といっしょに『大歳小百周年記念広報』というのが届きました。さっそく姉といっしょに読みました。

その中に大歳小は昔からたくさんの賞をとっていること、以前は「山口県師範学校代用附属小学校」だったことなど、いろいろなことが書いてありました。

ぼくは、大歳小の昔からのことが分かってうれしくなり、そして母校のことを聞かれてもこたえられるという自信が持てました。

大歳小学校百年に想う

6年4組 伊藤 怜子

今年、大歳小学校は百年を迎える。明治の頃、新しい学校ができて、みんなとても喜んだことだろう。それから百年間、たくさん子どもがここで遊んだり、勉強したりしてきた。私は、ちょうど百年目に大歳小学校にいるなんてとてもラッキーだと思う。旧校舎でも3年間学ぶことができたし、4月にはりっぱな新しい校舎も完成した。今学校では、『元気でなかよしがんばる子ども』をめざし、みんな楽しい毎日を送っている。私が卒業した百年後も、きっと明るい声のひびく大歳小学校があるだろう。

百年史に思うこと

6年4組 松田 真司

ぼくは5年の1学期に引っ越してきました。その時には40年間使ったという木造の校舎が建っていました。ぼくは、歴史のある学校だなと思いました。その木造の校舎は去年の6月にとりこわされました。ぼく達6年の社会は歴史の勉強をしています。ぼくはその歴史の勉強が好きなのでいろいろと大歳小のことが知りたいです。

例えば、戦争があった50年前は、大歳小の児童たちはどんな生活だったのかなと思いました。大歳小学校は歴史のあるすばらしい小学校だと思います。



6年3組



6年4組

親子四代続いて大歳小で

第百回卒業生 平仲 由佳

私の家は、親子4代大歳小を卒業しています。その親子の中でも、私は第百回目の卒業生です。6年間多くの出会いがあり、思い出ができました。その中に1つだけ悲しかったことがあります。それは、父の代からあった旧校舎がくずれてしまったということです。今は、新しい立派なのが建ちました。でも、私は、あの木の校舎が大好きでした。何ともいえないぬくもりがありました。

時がたつにつれて、大歳小もどんどん変わっていきます。でも、大好きな私の母校です。

百回目の卒業生として

第百回卒業生 宮崎 和代

六年前、真新しい制服を着て元気に入学しました。そして今、私は百回目の卒業生として、巣立とうとしています。これと同じことを私の母、祖父、曾祖父も体験してきました。

大正・昭和・平成と時代がちがひ、もちろん校舎もまわりの景色もちがいます。しかしただ一つ変わらないことは、だれもみなこの大歳小を誇りに思っているということです。

これからもずっと、わたしの母校、大歳小がますます立派に続いていくことを願っています。

百周年をむかえて

第百回卒業生 磯部 賢志

今年でいよいよ創立百周年をむかえる大歳小学校。旧校舎もいっしょにこの記念すべき年をむかえられるといいなと思いました。

でも、卒業前に新校舎を見学に行き、すばらしい施設にびっくりしました。旧校舎もきっと喜んで百周年をお祝いしてくれていることでしょう。

立派な新校舎から、また、ほく達に変わる「たくましい大歳っ子」が生まれると信じています。ほくは、この大歳小学校を21世紀になっても、ずっとあたたかい目で見守っていこうと思っています。

百周年を目の前にして

第百回卒業生 田鍋 敏子

平成7年度は、大歳小学校にとって、百周年という記念すべき年です。百回目の卒業生として卒業できることをほこりに思っています。新校舎もでき、楽しさいっぱい、夢いっぱいの大歳小学校となっていくでしょう。

さて、百年という長い年月を経た今でも、良い伝統は、受け継がれていると思います。例えば、あいさつです。気持ちよいさわやかなあいさつ運動は今年も続いています。

最後に私は、大歳小が母校だと胸を張って言えるような大人になろうと卒業をひかえた今、心にかたく決心しています。



第100回卒業生



第100回卒業生

大歳小学校は百歳

第百回卒業生 網広 優三

大歳小学校は、今年で百歳を迎える。祖母が通っていたころは、この小学校の名前は、吉敷郡大歳村立大歳尋常高等小学校だったそうだ。今は、山口県山口市立大歳小学校となり、名前だけでもずいぶん変わってきている。しかも当時は大歳村で、中学校と小学校がいっしょだった時期があったらしい。

ほくは、このままこの大歳小学校が何年も何年も続いてほしいと願っている。これからも、今年できた新校舎を見ながら、いつまでも、大歳小学校を見守っていきたいと思う。

今でも、これからも

第百回卒業生 河崎 利恵

今年で大歳小学校は、百周年目です。百年目に、旧校舎の跡に新校舎が建ちました。百年の間に、学校は約八千人という卒業生を世の中に送っていったそうです。

そして、わたしも今年この仲間になります。これまでの百年間、学校はいろいろと変化してきました。わたしと同じ大歳小出身の祖母に聞くと、給食が始まったばかりの頃は、今のように給食の先生が作るのではなく、母親が当番で作ったり、制服も「もんぺ」をはいた時期があったりしたそうです。

これからも学校がもっと楽しい所、大歳地区の大切な所として育っていらしてほしいと思います。

百回目の卒業生

第百回卒業生 山本 聡

ほくは、大歳小学校百回目の卒業生です。ほくの身の回りには、そう祖父、祖父、近くに住む3人の叔母、そしてほくの母、みんな大歳小学校の卒業生です。今、ほくが百回目の卒業生としてここにいるのは、1回から99回の卒業生のみなさんのおかげだと思います。

一口に『百年』というけれど、言いかえれば、『一世紀』。長い長い歴史を感じます。その長い歴史をつくり上げてくださった先輩方に感謝しながら、ほくは大歳小学校百回目の卒業生として、ほこりをもって卒業証書を受け取りたいと思います。

百周年をむかえる今

第百回卒業生 佐々木 郁美

わたし達は、この記念すべき百回目の卒業生。そこで百周年をむかえる今、こう思います。あたり前のような事ですが、この百周年は、大歳小でたった一度しかないのです。それをわたし達が背負うので、なんて幸せなんだろうと思わずにはられません。

こんな、チャンスはもうないと思います。だから、百周年ということを忘れずに、この大歳小学校を卒業していきたいです。

そして、わたし達が卒業して、やがて大人になっても、これが大歳小学校百周年目のりっぱな卒業生だと言われるようにしたいです。



第100回卒業生



第100回卒業生

1. 大歳小学校創立100周年記念事業について

副委員長 多田 宏之

大歳地区における小学校教育は、明治7年3月朝田村に朝田小学校が創立され、明治10年6月に矢原村に高田小学校が新設されたことに始まります。

その後、明治28年10月1日、現在地に大歳尋常小学校が創立され、本年度100周年を迎えることとなりました。この間、山口県師範学校代用附属小学校、大歳国民学校と変遷し、昭和22年4月学校教育法施行により山口市立大歳小学校として現在に至っており、創立以来8,600余名の卒業生を送り出してまいりました。

この輝かしい歴史と伝統を誇る大歳小学校が、創立100周年を迎えるにあたり、大歳小PTAにおいては、数年前よりPTA特別会計を設置し、友愛セール等のバザー売り上げ金を記念事業の基金として役立てようと積み立ててきたところであります。

このような経緯の中で、平成6年12月8日、大歳小学校においてPTAを中心として地区関係者にご協力をお願いし第1回の発起人会を開催、その後数回に亘り基本的な事業計画等を検討し、大歳自治振興会長（宮田平助）、大歳自治振興会婦人部会長（石光清恵）大歳小学校PTA会長（多田宏之）、大歳小学校卒業生代表（武波貞義、林正則）を発起人として、平成7年1月31日に大歳公民館において、大歳地区各自治会長、また大歳地区各関係団体代表の方々多数のご出席を賜り、地域をあげてお祝いし、今後更なる大歳小学校教育の進展に寄与することを目的とし、「大歳小学校創立100周年記念事業実行委員会」が設置され規約等を承認、実行委員長に大歳自治振興会長（宮田平助、平成7年4月より三井茂）を選出いたしました。

記念事業といたしましては、記念式典及び記念誌発刊・記念碑建立・小学校校門整備等を計画し、事業実施にあたっては、記念式典文化専門委員会・広報専門委員会・記念誌編纂専門委員会・記念事業専門委員会・財政専門委員会の5つの専門委員会を設置し、各々具体的な計画等について進めていくこととなりました。記念事業の詳細については下記の通りであり、また校舎についても関係各位のご高配により整備され、新校舎の竣工も併せて挙行いたすこととなりました。

終わりに、創立100周年と新校舎の竣工を、児童、卒業生をはじめ多くの地域の皆様方と共に祝いをお祝いし、大歳小学校の今後ますますの発展を念願するとともに、100周年記念事業推進にあたり多くの方々よりご芳志を賜るとともに、ご協力をいただいた皆様方に衷心より感謝を申しあげ、記念事業実施経過の概要といたします。

2. 大歳小学校100周年記念事業実行委員会組織

委員長 三井 茂（自治振興会長）	関光 章（消防後援会長）
副委員長 多田宏之（PTA会長）	山内明一（史談会会長）
武波貞義（卒業生代表）	国吉武志（公民館長）
幹事 山本 宏（市議会議員）	倉重博徳（体育振興会長）
藤井盛男（市議会議員）	林 正則（卒業生代表）
宮田平助（元自治振興会長）	青木恵美子（自治振興会婦人部会長）

事務局長 藤井 盛（PTA副会長）	会 計 岡村郁子（元PTA書記）
事務局次長 岡田 剛（教頭）	監 事 内田幸江（PTA監事）
書記 山本詳子（PTA副会長）	野口玲子（元PTA監事）
宮成真澄（PTA副会長）	参 与 福重悦子（大歳小学校長）
岡村郁子（元PTA書記）	国吉武志（大歳出張所長）

(1) 記念式典文化専門委員会 (◎は専門委員長)

◎三井 茂	大隅禮次郎	福重悦子	多田宏之	山本詳子
国吉武志	藤井盛男	岡田 剛	藤井 盛	岡村郁子
榎本和男	山本 宏	中野秀之	宮成真澄	

(2) 広報専門委員会

◎倉重博徳	藤川孝和	福重悦子	藤井 盛	山本詳子
三井 茂	林 正則	多田宏之	宮成真澄	岡村郁子

(3) 記念誌編纂専門委員会

◎山内明一	野村靖幸	秋田利男	宮成真澄	伊藤順子
三井 茂	岡本義雄	武波哲雄	山本詳子	
和田哲夫	福重悦子	林 正則	岡村郁子	
藤井 晃	岡田 剛	多田宏之	阿野由美子	
関光 寿	大谷猛夫	藤井 盛	松本喜代美	

(4) 記念事業専門委員会

◎武波貞義	松田義忠	藤井盛男	福重悦子	藤井 盛
三井 茂	長田キヨコ	山本 宏	岡田 剛	山本詳子
宮田平助	坪郷典男	国吉武志	多田宏之	岡村郁子

(5) 財政専門委員会

◎関光 章	平田謙次郎	内門弘美	波多野正保	徳光直之
三井 茂	中村一之	平田敏弘	藤井盛男	福重悦子
水野明夫	津田タカ	鷲尾泰治	山本 宏	多田宏之
平田正彦	飛田泰二	中村忠則	藤村彰一	藤井 盛
秦 昭治	中野禎皓	山下 博	中村泰昌	山本詳子
冷泉榮二	山田研二	青木 征	小原 章	岡村郁子
大草茂樹	益城久雄	水上直行	福田京馬	
柴 美幸	村上 東	伊妻竹正	原野幸雄	
山本昭八	田中舜治	青木恵美子	平原万里	
末廣春夫	佐々木 孟	安富昭人	国吉武志	

大歳小学校創立100周年記念事業実行委員会規約

- (名称) 第1条 この会は、大歳小学校創立100周年記念事業実行委員会(以下「実行委員会」という。)と称する。
- (事務局) 第2条 実行委員会の事務局を大歳小学校に置く。
- (目的) 第3条 本年10月1日に大歳小学校創立100周年を迎えるにあたり、輝かしい歴史と伝統を祝し、今後更なる大歳小学校教育の進展に寄与することを目的とする。
- (事業) 第4条 前条の目的を達成するために次の記念事業を行う。
 (1) 記念式典
 (2) 大歳小学校校門整備
 (3) 記念誌発刊
 (4) 記念テレフォンカード作成
 (5) 前各号に掲げる事業のほか、第3条の目的を達成するため必要な事業
- (構成) 第5条 実行委員会は次に掲げる者で構成する。
 (1) 大歳自治振興会会長
 (2) 大歳地区各自治会会長
 (3) 大歳自治振興会婦人部会長
 (4) 大歳小学校校長・教頭
 (5) 大歳公民館館長・主事
 (6) 大歳公民館後援会会長
 (7) 大歳地区社会福祉協議会会長
 (8) 同和教育推進協議会会長
 (9) 大歳地区交通安全対策協議会会長
 (10) 大歳地区青少年健全育成協議会会長
 (11) 大歳体育振興会会長
 (12) 大歳地区子供会育成連絡協議会会長
 (13) 大歳地区スポーツ連絡協議会会長
 (14) 大歳地区文化団体連絡協議会会長
 (15) 大歳地区老人クラブ連合会会長
 (16) 大歳地区選出市議会議員
 (17) 大歳地区出身山口市教育委員
 (18) 大歳公民館運営審議会会長
 (19) 市体育指導委員
 (20) 民生委員児童委員総務
 (21) 山口市農業協同組合大歳支所所長
 (22) 特別林野委員長
 (23) 山口市消防団大歳分団団長
 (24) 消防後援会会長
 (25) 大歳商工会会長
 (26) 大歳郵便局局長
 (27) 史談会会長
 (28) 大歳小学校卒業生代表
 (29) 大歳地区在住元校長・教頭
 (30) 大歳小学校歴代PTA会長
 (31) 大歳小学校PTA
- (役員) 第6条 実行委員会に次の役員を置くことができる。
 (1) 委員長 1名
 (2) 副委員長 2名
 (3) 幹事 若干名
 (4) 事務局 1名
 (5) 事務局次長 1名
 (6) 書記 若干名
 (7) 会計 1名
 (8) 監事 2名
 (9) 参与 若干名
- (役員の選出) 第7条 前条の役員の選出については、第5条の構成委員より選出することができる。
- (役員の任務) 第8条 役員の任務は次のとおりとする。
 (1) 委員長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。
 (2) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長不在のときは、その職務を代行する。
 (3) 幹事は、記念事業の企画及び実施に関することを行う。
 (4) 事務局長は、実行委員会の事務を統括する。
 (5) 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長不在のときは、その職務を代行する。
 (6) 書記は、実行委員会の事務を処理する。
 (7) 会計は、実行委員会の会計を処理する。
 (8) 監事は、実行委員会の会計を監査する。
 (9) 参与は、委員長の諮問に応じるとともに意見を述べる。
- (実行委員会) 第9条 実行委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。
 2 実行委員会は、記念事業実施に係る最高議決機関とする。
- (役員会) 第10条 役員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。
 2 役員会は、記念事業実施に係る具体的な事項について審議する。
- (専門委員会) 第11条 実行委員会の中に専門委員会を置くことができる。
 2 専門委員会の委員は、委員長が委嘱する。
 3 専門委員会の活動内容については、委員長がこれを定める。
- (経費) 第12条 実行委員会の目的達成に要する経費については、大歳小学校PTA特別会計の積立て金の拠出及び物品販売益金等をもってあてる。
 付 則 この規約は、平成7年1月31日から施行する。

3. 各専門委員会の事業(活動)内容

(1) 記念式典文化専門委員会

ア 大歳小学校創立100周年記念式典

歴史と伝統に輝く大歳小の100周年を迎えるにあたり、先輩の残された業績を記念し、風雪に耐えてきた歴史を祝い21世紀に向けて更なる発展の礎とするため、

佳日に記念式典を開催する。

◇主 催 大歳小学校創立100周年記念事業実行委員会

◇と き 10月1日(日) ◇ところ 大歳小学校体育館

◇内 容 記念式典およびピアニスト弘中孝氏(校歌作曲者のご子息)の記念演奏

イ 記念碑除幕式(同じく10月1日)

ウ タイムカプセル埋設式(同じく10月1日)

エ 大歳小100年展

大歳小と地域の100年を写真・パネル・展示物で紹介(明治・大正・昭和の教科書、文具、学校行事や民具など)、21世紀への大歳の教育・ふるさとづくりに資する。

◇と き 10月1日(日)~10月8日(日) ◇ところ 大歳小学校

オ 文化講演会

記念事業の広報を兼ねて、大歳公民館生涯学習講座人生シリーズを共催。

◇と き 7月15日(土) 19:00~ ◇ところ 大歳小学校体育館

◇内 容 演題「大丈夫。頑張りましょう。」講師は、脊柱側湾症の障害を克服し波瀾の人生をたくましく明るく、そして美しく生きておられる鹿野正子先生(浜松市在住・1995年「心に残る医療」私の体験記コンクールで厚生大臣賞受賞)。

(2) 広報専門委員会

ア 地域住民等に対する啓発、広報

大歳小百周年記念広報発行(第1号平成7年7月1日)。公民館だよりで随時啓発活動を行う。

イ マスコミに対する資料提供等

市政記者クラブ(山口市役所)に記念事業の概要を発表。

ウ その他広報に関すること

(3) 記念誌編纂専門委員会

ア 大歳小百年史の編纂

編集内容は、本書のとおり6章と卒業生・教職員名簿からなる。卒業生名簿については、年度別の一覧表を作成し、大正10年卒業以降につき、年次ごとの責任者へ現住所・現姓名・生死について確認を依頼し、ご苦労をかけた。

書名は「大歳小百年史」とし、その題字は宮田平助氏(前実行委員会委員長)に筆をふるっていただく。

(4) 記念事業専門委員会

ア 記念碑の建立

創立百周年を記念するとともに、21世紀に大きくはばたく大歳っ子の健やかな成長を願って「心に太陽」の記念碑を前庭に建立。

碑銘は広く公募し、選定委員会にかけられたが、①わかりやすく、②親しみやすく、③未来への限らない発展を象徴し、④4字以内という選定基準を満たす作品がなかった。審議を重ね、最終的には学校代表選定委員(福重校長)から提案

された「心に太陽」が、各応募者の願いとも一致するものとして決定された。

碑銘の揮毫は武波貞義氏（記念事業専門委員長）による。8月1日完成。

イ 校門周辺の整備

ざん新なデザインのもとに新設された校門（市教委の建設）の完成を機会に、校門からのアプローチにインターロッキングブロックを敷設、カラー化した。グリーン四つ葉は、子供たちの幸せを願い、クリーム色の曲線は樫野川の流れを表している。両サイドはレンガでふちどりをし、シュロやサツキを植栽した。

ウ タイムカプセルの埋設

記念碑のそばにタイムカプセルを埋める。百周年関係資料、児童の作品、10月1日の新聞、くらしの物品等を入れ、50年の時をカプセルにとどめる。（カプセルは50年後の2045年に開くものとする）

エ 大歳小歴代校長の写真作成

大歳小歴代校長先生の額入り写真を作成、校長室に掲げる。

オ 下敷の作成（児童への記念品）

児童の人文字航空写真や校舎前景の写真を下敷に作成して、在校生への百周年の記念品とする。

(5) 財政専門委員会

ア 財政に関すること（財源の確保）

◇テレホンカードの作成斡旋

大歳小校舎全景および人文字航空写真、各1,500枚を自治会・事務局を通じて斡旋。

◇「大歳小百年史」の実費配布

自治会を通して予約・斡旋・配布。

◇特別寄付の募集

趣 意 書

皆様にはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、大歳小学校は明治二十八年十月一日現在地に村立小学校として開校し、今秋百周年を迎えます。

建学以来、たくましい大歳っ子の伝統は一世にわたり今もなお建学として継承され、この間の卒業生は八、五八五名に及んでいます。

この歴史と伝統に輝く大歳小の百周年を迎えるにあたり、先輩の残された業績を記念し、風雪に耐えてきた歴史を祝い、二十一世紀に向けて更なる発展の礎とするために、左記の創立百周年記念事業を計画いたしております。この計画の推進にあたりましては、自治振興会・卒業生・PTAが一体となつて本事業の推進にあたりたいと存じます。

つきましては、本事業が有意義なものになるよう、格段の御協力、御支援を心からお願いいたします。

各地で御活躍の同窓生の方々、大歳小学校を御支援下さいます皆様へ平素の御無沙汰をおわび申し上げますとともに創立百周年記念事業へのお力添えを重ねてお願い申し上げます。

◇ 記念事業

- 一、大歳小百年史編集 四百七十五万円
- 二、記念碑建立 百五十万円
- 三、記念式典・文化講演会の開催 百二十万円
- 四、タイムカプセルの設置 百三十万円
- 五、歴代校長写真の整理 三十万円
- 六、校門周辺の環境整備 百八十六万円
- 七、児童への記念品 十万円

◇ 基金要項

- 一、基金団体七代表者 大歳小学校創立百周年記念事業実行委員会
- 二、基金団体所在地 千七百 山口市大字大原一四〇七五 委員長 三井 茂
- 三、基金目標額 四百三十万円
- 四、申込額 一口 十円
- 五、期間 一年間 平成七年四月一日から平成八年三月三十一日まで

大歳小学校創立百周年記念事業実行委員会

イ 財務事務に関すること

4. 100周年を祝って

— 母校に寄せる思い そして故郷への愛が —

実行委員会事務局長 藤井 盛

平成7年6月16日、第2回実行委員会をもって事業計画が議決され、一斉に記念事業への取り組みが始まりました。

記念事業の効率的な運営を図るため、5つの専門委員会を構成し、それぞれの役割分担とその責任において、各委員会が緊密な関係のもとに作業を急ぐことになったのです。

とはいいいながら、10月1日に向けての記念事業の具体的な実施計画、工期、財源の確保等々、いずれをとっても困難な問題が山積し、まことに厳しい情勢でした。委員長をはじめとする関係役員の心労は筆舌に尽くし難いものがありました。しかし、母校に寄せる思い、故郷を愛する情熱が関係者の心を動かし、難関を乗り越えて、ようやくその曙光を見るに至ったのであります。

その中でも、画期的な事業である「大歳小百年史」の編纂については、2月に編纂専門委員会を発足させて6ヵ月余という短い作業期間にもかかわらず、関係者の日夜をわかつたぬ献身的なご努力によって刊行にいたりましたことに対し、深甚なる謝意を表する次第でございます。

一方、記念事業部は記念碑建立を中心に進められ、自然石の確保・碑銘募集・揮毫と、その計画は着々と進み、8月に完工をみました。また、校門周辺の装いも新たにざん新なカラーアプローチが完成。タイムカプセルには児童の夢を50年後に託すことになりました。財政専門委員会は、自治会長にご協力いただく中で、百年史の申し込み、受付、テレホンカードの斡旋。特別寄付の募金活動についても、厳しい社会情勢のなかで関係役員のご努力によって、ようやくその目標に近づきつつありますことを感謝いたします。

式典文化専門委員会は、100周年の記念式典を中心に、文化講演会・大歳小百年展を企画しております。

このように、各委員会ともそれぞれの分担をスムーズに推進できたのも、ひとえに参与・国吉武志氏（大歳公民館長）の、立案・運営全般にわたる陰のご尽力があったればこそで、改めて敬意を表する次第でございます。

おわりに、多くの方々のご協力に感謝すると同時に、この100周年を祝い、母校の更なる発展を祈ってごあいさつとします。

心に太陽を

— 碑銘に寄せて —

福重悦子

太陽のように分けへだてなく
やさしさと愛の心をもって
お互い仲良く手をつなごう

太陽のように力強く明るく
夢と希望をもって
たゆまず進んでいこう

太陽のようにすべてを包み
みんなで幸せに向かって
たくましく生きぬこう



卒業生名簿

平成7年調

1 参考資料

- (1) 学校保管の「卒業証書台帳」
- (2) 学校保管の「沿革誌」

2 凡 例

- (1) 義務教育の変遷 開校当時、小学校は尋常科が4か年（義務教育）、高等科が4か年であった。明治40年から尋常科が6か年（義務教育）、高等科が2か年となった。昭和16年「国民学校令」により、小学校が国民学校と呼ばれるようになったが、修業年限は変わらず初等科が6か年（義務教育）、高等科が2か年であった。昭和22年、6・3制により、小学校6か年、新制中学校3か年をあわせて9か年が義務教育となった。
- (2) 名簿記載の範囲および順序は、「卒業証書台帳」のとおりとした。
- (3) 氏名の文字は、「卒業証書台帳」に拠ったが、判読困難なものについては「沿革誌」等で補正した。また一部を除き常用漢字を使用した。
- (4) 大正10年までは氏名のみとし、大正11年卒業生から現在姓・現住所を登載した。なお、在校生名簿も付記した。
- (5) 現住所欄の○印は死亡者